

## . まとめ

さて、直説法には、BODYの外世界(環境)の直説法現在形と思考内世界の直説法過去形との二つが存在し、前者は**外世界**Moodであり、後者は**内世界**Moodである。外世界(REAL UNIVERSE)は当たり前前に現在を示すことについては許されている(過去を体験することはナンセンスである)のだが、時間に左右されないという『普遍』という語の語義から考えても、定義や普遍一般の事項について時間軸上で議論するのには無理があった。また、内世界(DREAM UNIVERSE)は、過去

## &lt;SAMPLE &gt;

過去形は過去の世界(回想)と仮定の世界を表す。帰結節だけで仮定を表せる理由、仮定法が過去形である理由、had betterが、過去ではない理由、仮定法に現在完了が使われない理由もこれである。本論では仮定法の説明はおよそ1行の理論で足りるのです。willの過去形wouldについて、未来の過去って何ですか?と聞かれたら、これを答えればよい。

現在形は現在、過去形は過去を必ずしも表さない理由は、意味論と時制論は関係するかもしれないが、文法と時制論は無関係であるからである。過去形は時と無関係である。現在形は時と無関係である。

過去を表現する方法には、過去形と、現在完了を使う方法とがある。ひとつには決まっていな

『If』があるから仮定法?』という見方は間違いである。仮定法と直説法条件節Ifはどこが違うのか。結論:全く同じものです。仮定法は過去形が創るのであり、Ifによるものではありません。

未来形および未来時制は存在しない。未来のことは主観でしか言えない。主観を表現するには助動詞を使うことが多い。

現在完了というものは、現在形である。そして現在ではない。

過去完了は過去形である。そして過去ではない。

現在形 環境に存在している。生のお話、有のモード。現実に触れることのできるもの。事象、定義、定理、これ、客観的に存在するもの。

過去形 環境に存在していない。生でないお話、虚無のモード。頭の中だけのお話、主観的に存在するもの。記憶と回想、夢、主観、希望、願望、回想(過去)、史実、あれ、"that節"や、不定詞の"to"は頭の中に存在する事象を指し示している。"as"や"so"も同じモード。

過去を推量すれば、『できた..』、『できたはず...』になって、純粹に過去を表現できない。主観的助動詞は過去を表現できない(澤田170)。過去を示すには完了不定詞を後続させる。

未来のwillの過去形wouldについて未来の過去って何?という疑問は当然である。動詞類の変化形は時制とは独立無関係に活用するからである。過去形が意味するものは過去か仮想の話であるが主観的助動詞は過去を表現できない(澤田170)ので、ここは仮想の話である。